

8.12. 自然との触れ合いの場

8.12.1. 現況調査

(1) 調査内容

自然との触れ合いの場の現況調査は、表 8.12-1 に示すとおり、「触れ合いの場の状況」を把握した。

表 8.12-1 調査内容

調査内容	
触れ合いの場の状況	<ul style="list-style-type: none">・触れ合いの場の分布・利用状況・触れ合いの場の特性

(2) 調査方法

調査方法は、表 8.12-2 に示すとおりとした。

表 8.12-2 調査方法

調査項目	調査方法
触れ合いの場の状況 ・触れ合いの場の分布 ・利用状況 ・触れ合いの場の特性	既存文献資料により、触れ合いの場の分布、利用状況及び触れ合いの場の特性について把握した。 現地調査により、策川の利用状況について把握した。 地形・植生等の調査結果の解析により、触れ合い活動の場の環境特性を把握した。 国、仙台市等が行っている住民との取組みを把握し、聞き取り調査も実施した。

(3) 調査地域及び調査地点

調査地域は、土地の形状の変更及びそれに伴う水象の変化等により、触れ合いの場における利用環境の変化が想定される地域とし、植生、地形等を考慮し設定した。

調査地域は事業予定地及び周辺の西側水田・畑も含めて策川、旧策川、名取川とした。

現地調査地点は、調査地域における触れ合いの場の状況を適切に把握できる地点とし、図 8.12-1 に示す事業予定地周辺において抽出した親水護岸が整備されている策川、旧策川、名取川とした。

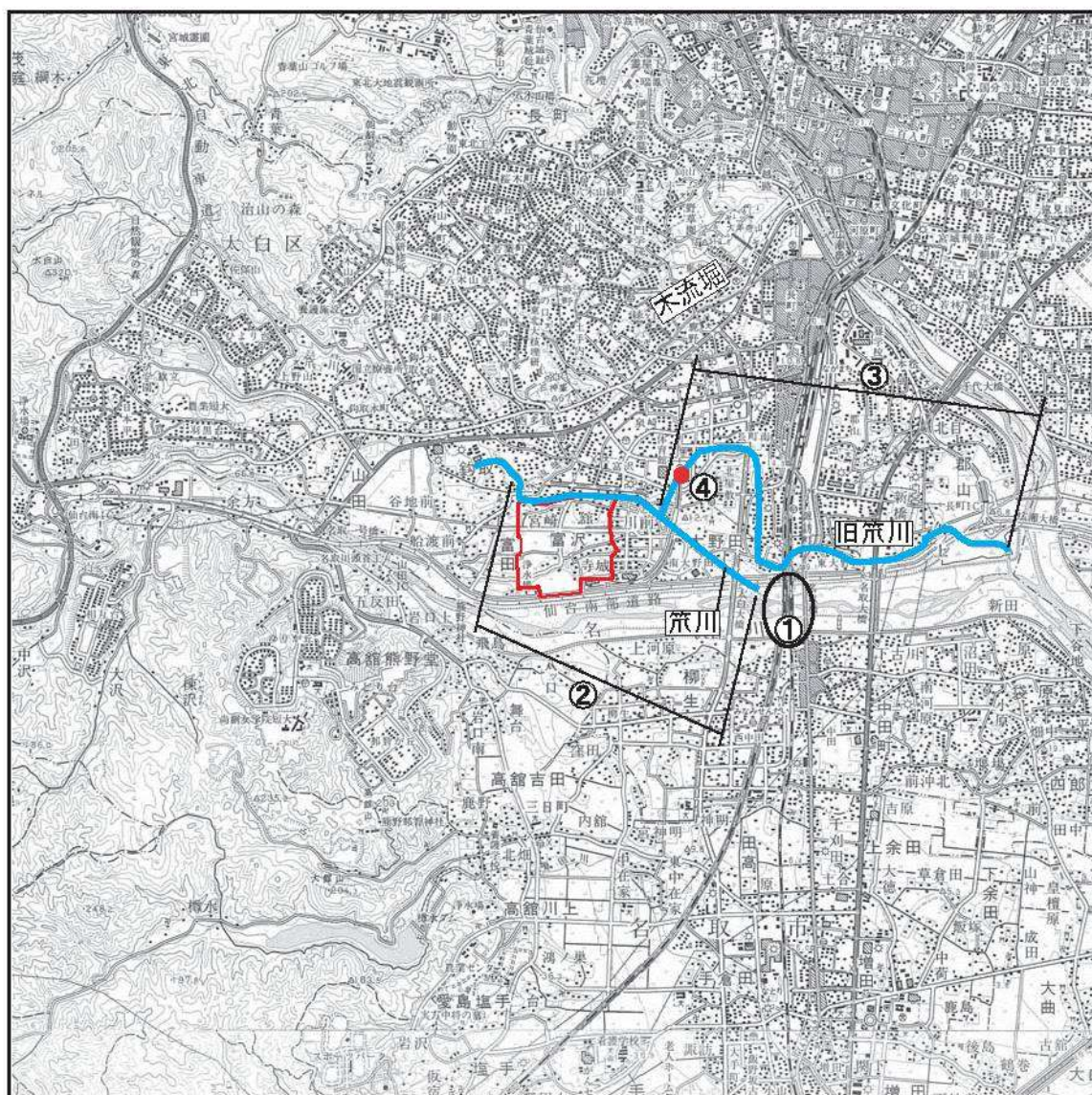
(4) 調査期間等

調査期間等は、表 8.12-3 に示すとおりである。

表 8.12-3 調査期間

調査内容	調査期間		
既存文献資料調査	既存資料の調査期間とした。		
現地調査	冬季	平日	平成 23 年 3 月 1 日
		休日	平成 23 年 3 月 6 日
	春季	平日	平成 23 年 5 月 11 日
		休日	平成 23 年 5 月 15 日
	夏季	平日	平成 23 年 8 月 3 日
		休日	平成 23 年 8 月 7 日
	秋季	平日	平成 23 年 10 月 20 日
		休日	平成 23 年 10 月 23 日

注) 調査時間は 9 時～17 時とした。



凡 例



事業予定地



河川 (笹川の一部・旧笹川)

- ① 中田地区河道整備 (名取川)
- ② 笹川地区利用促進 (笹川)
- ③ 広瀬川地区水環境整備 (旧笹川)
- ④ ホタル観察会 (旧笹川)

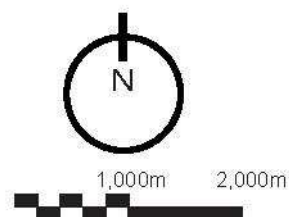


図 8.12-1 調査地点位置図

(5) 調査結果

自然との触れ合いの場の分布は、地域の概況「6.1.5 景観等（2）自然との触れ合いの場」（p.6-126 参照）に示すとおりである。事業予定地及び西側には水田や畑が広がり、農業用水路が延び、樹林地も点在している自然との触れ合いの場となっている。

既存資料等により抽出した自然との触れ合いの場のうち、本事業による影響を考慮して、名取川、策川、旧策川の親水護岸等が整備されている地点とし、既存文献資料及び聞き取り調査により、触れ合い活動の場の分布、利用状況、環境特性を把握した。

調査結果は表 8.12-4(1)～(4)に示すとおりである。

表 8.12-4(1) 触れ合いの場の状況



調査地点	①中田地区河道整備（名取川）	
触れ合いの場の分布	 <p>中田地区名取川左岸河道整備箇所の状況 写真撮影：平成 23 年 5 月 29 日</p>	
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の小学校の自然環境学習フィールドとして利用され、水生生物の調査やサケの稚魚放流などが行われている。 ・ 週末には親子でバーベキューや芋煮会を行う光景が盛んに見られる。 ・ 河川整備箇所は、JR 東北本線高架下の河川敷である。右岸側が仙台市太白区西中田地区、左岸側が仙台市太白区大野田地区である。 	 <p>体験 みんなの名取川（イベント開催） （平成 20 年名取川水系直轄総合水系環境整備事業 国土交通省東北整備局資料より）</p>
触れ合いの場の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台市では、仙台グリーンプラン 21（緑の基本計画）に基づき、名取川中流部を緑地公園整備地区の一つとして位置づけ、河川事業との連携による開放的な水辺、周辺と調和が良好に保たれた水辺、生物の生息・生育環境としての水辺の実現に向け、まちづくりと調和した一帯的整備を切望して実施された。 ・ 周辺には、小学校、福祉関連施設が複数存在し、リハビリテーションの場などとして川の果たす機能は大きく、平成 11 年、地域住民が組織する「名取川中流部の環境整備を考える会」が設立された。現在も同会の主催により、当該地域河川整備の清掃活動が自主的に行われている。 ・ 整備検討に先立ち、地域住民の川への関心を喚起し、実際に使用する子供の視点を計画に反映するなどして、名取川の自然を生かした地域振興、環境教育に寄与する自然的な親水性ある水辺区間の整備を実施した。 <p>整備内容：親水護岸の整備</p>	

表 8.12-4(2) 触れ合いの場の状況

調査地点	② 笹川地区利用促進（笹川）	
触れ合いの場の分布	 <p>笹川の状況(杉の下橋より上流側) 写真撮影：平成 23 年 5 月 11 日</p>	
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富沢市民センターが年 2 回、6 月と 10 月に「笹川の生きもの観察会」を水辺環境整備完了後の平成 16 年から毎年行っている。※ ・ 毎回 50 人前後の参加者があり、笹川の魚類、昆虫類など水生動物を観察する。※ ・ 観察会の場所は笹川整備区域で、熊野宮橋からその下流杉の下橋間で行っている。※ ・ 東北地方整備局の記録によれば、笹川整備後の利用者は、平成 18 年に年間 13 万人であった。 	 <p>笹川の生きもの観察会 写真撮影：平成 23 年 6 月 19 日</p>
触れ合いの場の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笹川は太白山麓を源流とし、富沢地区から大野田地区を経て名取川に注ぐ河川であるが、しばしば水害をおこす暴れ川であった。そのため昭和 47 年から 48 年にかけてバイパス河川として整備され、新たな笹川となった。その後周辺の区画整理事業などによる都市化が進み、地下鉄の開通などを受け、地域住民から河川環境の向上の要望により、水辺環境の整備を行い現在の笹川が平成 15 年完成した。 ・ 単純な水路であったものを、瀬、淵、拡幅箇所を設け、変化をもたせた整備を行い、水生動物の生息に適したものとなった。 ・ 整備後は、右岸、左岸に階段を 6 箇所、横断できる階段を 3 箇所、水面拡幅箇所が 7 箇所、渡り橋 6 箇所が整備されている。 ・ 水路内及び水路端には、ツルヨシが多く繁茂し、その中にエゾノギシギシ、イタドリ、ヨモギ、カササゲ、オオブタクサなどがみられる。オオブタクサは所々に群落を形成している。法面はシバで被われ、ヒメムカシヨモギ、セイタカアワダチソウ、シロツメクサなどが点在する。 ・ 笹川では、ウグイ、タモロコ、アブラハヤ、オイカワ、アユ、ヨシノボリ、ドジョウの魚類、コオニヤンマ、ハグロトンボ、ダビドサナエ、ミヤマサナエ、オジロサナエ、コヤマトンボ、コオイムシ、ヒラタドROMシの昆虫類が確認されている。このほかモンカゲロウなどのカゲロウ類やモノアラガイなどの貝類、スジエビ、ヌマエビなどの甲殻類も確認されている。 	

※富沢市民センター観察会担当者聞取り

表 8.12-4(3) 触れ合いの場の状況

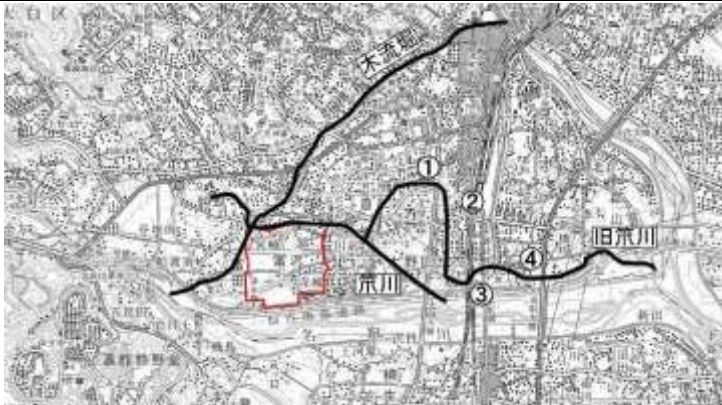






調査地点	③広瀬川地区水環境整備（旧笹川）
触れ合いの場の分布	 <p style="text-align: center;">写真撮影地点</p>
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季における渇水時には、広瀬川の流量低下が著しく、瀬切れ、異臭の発生、魚類の斃死など河川環境に多大な影響をおよぼしていた。 ・施設整備及び流量の改善により、利用者は増加してきた。 ・広瀬川の広瀬橋より下流ではアユつりも可能となり、旧笹川においても植生が回復し、散策する人が多くなっている。
触れ合いの場の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の幅広い論議と強い願いを受け、適正な水環境を維持していける施策をと、仙台地域水循環再構築に基づき、名取川より水を導水し、広瀬川及び旧笹川の水量を確保する施設整備が実施された。 ・導水を行うにあたり、釜房ダムの未利用水を利用し、導水路として既存の農業用水路（木流堀）、雨水幹線水路、宮城県管理河川を利用している。 ・導水によって、生態系の保全が図られ、水辺の利活用が増進し、良好な景観も保全されるなど、環境維持に大きく寄与している。 ・植生は、整備後の笹川と同じく、ツルヨシが優占しこれにその他の植物が点在し生育している状況である。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>① 県道仙台館腰線交差点付近</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>② 大野田地区阿久戸橋付近</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>③ JR 東北本線高架付近</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>④ 名取大橋交差点</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">写真撮影：平成 23 年 5 月 29 日</p>

表 8.12-4(4) 触れ合いの場の状況

調査地点	④ホタル観察会（旧笹川）	
触れ合いの場の分布	 <p>ホタル観察会地点付近の状況 写真撮影：平成 23 年 5 月 29 日</p>	
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・大野田ホタルの里づくり推進協議会と広瀬川の清流を守る会によって、6 月の中旬に観察会を行っている。 ・大野田小学校の生徒及び周辺の住民の参加が多く、平成 23 年は約 100 人程度の参加者であるが平年は約 300 人程度の参加者がある。 ・観察会の場所は、地下鉄富沢駅より北西に約 300m の地点、旧笹川大野田橋付近である。 	 <p>ホタル観察会の状況 写真撮影：平成 23 年 6 月 18 日</p>
触れ合いの場の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・笹川はしばしば水害をおこす暴れ川であったため、昭和 47 年から 48 年にバイパス河川を整備している。整備後、富沢 4 丁目より分岐し、北東に旧笹川、南東に流れるのが新たな笹川となった。 ・観察会が実施されている付近は、1 m 程度と水路幅が狭く流れも早く、移殖したホタルが流されてしまうことがしばしばあり、発生する個体数も少なくなっている。 ・分岐点より県道仙台館腰線までは、全体をツルヨシが被う状況で、その中にエゾノギシギシなどが点在する。観察会地点付近の植生も同様の状況である。 	

※広瀬川の清流を守る会聞取り

筑川における利用状況を現地調査により把握した。
調査結果は表 8.12-5 に示すとおりである。

表 8.12-5 筑川(杉の下橋)の利用状況

調査期間			利用者数（人）		
			午前	午後	計
冬季	平成23年 3月 1日	平日	24	27	51
	平成23年 3月 6日	休日	20	30	50
春季	平成23年 5月11日	平日	35	32	67
	平成23年 5月15日	休日	20	42	62
夏季	平成23年 8月 3日	平日	33	35	68
	平成23年 8月 7日	休日	38	37	75
秋季	平成23年10月20日	平日	28	25	53
	平成23年10月23日	休日	25	39	64
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・朝方は富沢駅に向う通勤者を確認した。また、幼稚園バスの巡回時間帯であることから、河川堤防でバスを待っている親子を見かけた。 ・午前は、9 時～10 時まで利用者が多く、昼すぎまでは数人程度しか見られなかった。午後は 2 時すぎから、犬をつれた散歩の人や散策、ジョギングの人が見られ、夕刻 17 時になると、仕事帰りや帰宅する生徒、散歩の人が増えていた。 ・散策・散歩の人の利用者は、中高年の方が多く、これに対し 20 代から 40 代の家族の利用者は比較的少ないようであった。 ・冬季は若干利用者数が少なくなるが、休日・平日、季節の変化で利用者数に大きな変動は見られなかった。 				
触れ合いの場の特性	<ul style="list-style-type: none"> ・水路の植生は、ツルヨシが優占しており、全体としてはあまり変化に富むところがないが、その下層の草丈の低い植物を見ると、スミレ類やタンポポ、シロツメクサやヒナゲシなど花のきれいな植物を見ることができる。散策などには良好な場所である。 ・整備後の筑川には、魚類が 7 種、トンボ類（ヤゴ）が 9 種、その他甲殻類や貝類など市街地を流れる河川としては、良好な水生生物の生息環境となっており、自然観察会などには適していると考えられる。 ・開放的な親水護岸の形態に改修したため、大雨などの河川流量が急激に増加する場合は安全に注意を要する。 				

8.12.2. 予測

(1) 工事による影響（直接改変による影響、利用環境への影響）

ア 予測内容

工事中の触れ合いの場の状況、土地の形状の変更に伴う触れ合いの場における親水性等の利用環境の変化の程度について予測した。

イ 予測地域及び予測地点

予測地域は、調査地域とした。

予測地点は、調査地点とした。

ウ 予測時期

予測時期は、工事の影響が最大となる時期とした。

エ 予測方法

予測方法は、触れ合いの場の特性解析結果と、事業計画の重ね合わせ及び事例の引用・解析により予測した。

オ 予測結果

事業予定地及び西側は、水田や畑が広がり、農業用水路が延び、樹林地も点在している身近な自然との触れ合いの場であり、事業予定地は直接改変するが、事業予定地西側は改変されず、工事用車両等が進入することもないため、影響は小さいと予測した。事業予定地は、現地踏査で確認した10ヶ所の樹林地について、樹林を所有する地権者に対して、仙台市の保存樹林制度の紹介などを行いながら、保全の働きかけを行う。また、4号公園内に既存樹林地を取り込み、公園管理者との協議を踏まえて、事業者自ら植栽を実施することから、影響は軽減されると予測した。

事業予定地周辺の自然との触れ合いの場である笹川への直接改変による影響はない。

事業予定地西側(上流側)からの農業用水は、事業予定地内の道路下に埋設する農業用水路（新設管渠）に接続させ、事業予定地東側の既存雨水管渠に流下し、笹川へ排水される。既存雨水管渠に接続するまでは切り回して事業予定地東側の既存雨水管渠に流下させることから笹川への排水量が著しく低下することはない。

また、工事中の降雨に伴う濁水が笹川へ排水されることから、笹川における触れ合いの場への影響が考えられるが、仮設沈砂池により濁水の濃度を低下させ、排水することから、現況の降雨時の濁水と同程度となり、触れ合いの場への影響は小さいと予測した。

名取川における触れ合いの場への影響については、笹川の濁水の影響が小さく、その濁水が名取川へ流入したとしても、名取川の流量が多く、希釈されることから濁水の影響はさらに小さくなるため、触れ合いの場への影響は小さいと予測した。

また、旧笹川は事業予定地からの濁水が排水される笹川の上流で分かれており、直接の排水は無いため、影響はないと予測した。

なお、重機の稼働に伴う大気汚染、粉じん及び騒音による影響も考えられるが、笹川との敷地境界付近の工事は既存家屋が立地しており、盛土等工事規模は限られると

考えられ、大気汚染・粉じん及び騒音の影響は小さいことから、触れ合いの場への影響は小さいと予測した。

(2) 存在による影響（改変後の地形）

ア 予測内容

事業予定地及びその周辺における供用後の触れ合いの場の状況、土地の形状の変更に伴う触れ合いの場における親水性等の利用環境の変化の程度について予測した。

イ 予測地域及び予測地点

予測地域は、調査地域とした。

予測地点は、調査地点とした。

ウ 予測時期

予測時期は、工事が完了した時期、事業活動が定常状態に達した時期とした。

エ 予測方法

予測方法は、触れ合いの場の特性の解析結果と、事業計画の重ね合わせ及び事例の引用・解析により予測した。

オ 予測結果

本事業の実施により、西側の田園地帯には供用後の施設関連車両は市道富沢山田線を走行することから、自然との触れ合いの場としての田園地帯に与える影響は小さいと予測した。事業予定地は整然と区画された宅地に変化するため、自然との触れ合いの場に与える影響はあるが、事業予定地の幹線道路や補助幹線道路には街路樹を植栽し、公園にも郷土種の植栽を行うとともに、仙台市へも植栽について要請する。また、現地踏査で確認した10ヶ所の樹林地について、樹林を所有する地権者に対して、仙台市の保存樹林制度の紹介などを行いながら、保全の働きかけを行うとともに、保留地購入者のうち希望者には樹木の苗木を1本提供し、事業予定地全体に緑のコリドーが形成されるように推進することから、影響は軽減されると予測した。

事業予定地周辺の自然との触れ合いの場である笹川への直接改変による影響はないことから、工事が完了した時点においても直接の影響はない。

また、事業予定地が改変され、笹川への流入量が低下することが考えられるが、事業予定地より西側（上流側）からの農業用水は、事業予定地内の道路下に埋設される農業用水路（新設管渠）により、事業予定地下流の既存雨水管渠に流下して、笹川へと放流される。

事業予定地からの雨水排水については、東側の既成市街地に埋設されている既存雨水管渠に排水され、笹川へと放流される。また、一部の区域は事業予定地に設置される調整池により、排水量を調整し、既存雨水管渠を経て笹川に排水されることから、笹川への著しい流出はなく、現況の親水性への影響は小さいと予測した。

名取川における触れ合いの場への影響については、名取川の流量が多く、笹川からの流量の変化も小さいことから影響は小さいと予測した。

旧笹川への影響については、事業予定地からの雨水排水は、笹川と旧笹川の分岐点よりも下流であることから、影響はないと予測した。

8.12.3. 環境の保全及び創造のための措置

(1) 工事による影響

ア 保全方針の検討

工事中的間接的な影響として重機等の稼働及び切土・盛土・掘削等に伴う大気汚染、粉じん及び騒音については、「発生源での大気汚染、粉じん及び騒音の低減」を保全方針としている。また、工事中的濁水についても「濁水の低減」を保全方針としている。なお、樹林地の改変を最小限にすることも保全方針としている。

イ 環境の保全及び創造のための措置の検討結果

重機の稼働及び切土・盛土・掘削等に伴う大気汚染及び騒音の環境の保全のための措置として、以下の①～③に示すとおりである。

①工事の平準化等

- ・各工事区域の工事を段階的に実施し、広大な裸地部が出現しないよう工程管理を実施する。
- ・必要に応じて散水・防塵シート等を覆うことで粉じんの飛散を防止する。

②作業員教育

- ・工事関係者に対して、入場前教育や作業前ミーティングにおいて、重機等のアイドリングストップや高負荷運転をしないよう指導・教育を徹底する。

③排出ガス対策型及び低騒音型重機の採用

- ・可能な限り排出ガス対策型重機及び低騒音型重機の採用に努める。

工事中的濁水の放流先への環境の保全のための措置として、以下の①～③に示すとおりである。

①工程管理

- ・事業予定地を工区分けし、工事を段階的に施工することで造成中の面積を極力最小限にする。

②仮設沈砂池の管理

- ・工事中に整備する仮設沈砂池は、堆積した土砂を適宜除去する。

③土砂流出抑制対策の実施

- ・長期間の裸地となることで土砂の流出の可能性が生じた場合には、適宜、仮設柵を設置するなどの対策を必要に応じて実施する。

樹林地の保全の環境の保全のための措置として、事業予定地の10箇所の樹林地（図1.5-4 p.1-17 参照）について、樹林を所有する地権者に対して、仙台市の保存樹林制度の紹介などを行いながら、保全の働きかけを行うとともに、4号公園内に樹林地を取り込み、公園管理者との協議を踏まえ、郷土種を考慮して植栽を行う。

表 8.12-6 環境の保全のための措置の検討結果整理

環境保全措置	大気汚染、騒音の低減	濁水の抑制	樹林地の保全
実施期間	工事中		計画段階・工事中
実施位置	事業予定地内		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の平準化等 ・作業員教育 ・排出ガス対策型及び低騒音型重機の採用 	<ul style="list-style-type: none"> ・工程管理 ・仮設沈砂池の管理 ・土砂流出抑制対策の実施 	事業予定地の10箇所の樹林地について、樹林を所有する地権者に対して、仙台市の保存樹林制度の紹介などを行いながら、保全の働きかけを行う。4号公園内に樹林地を取り込み、公園管理者との協議を踏まえて、郷土種を考慮して植栽を行う。
効果及び変化	効果を定量的に把握できないが、実行可能な範囲で影響を低減できる。		身近な自然との触れ合いの場が保全される。
副次的な影響	なし		特になし。
備 考			地権者との協議・調整が必要であり、不確実性がある。

(2) 存在による影響

ア 保全方針の検討

存在による間接的な影響として、水象における土地の改変に伴う雨水流出量の変化による策川への「流出量の抑制」及び事業予定地において形成されている水田や農耕地などの自然との触れ合いの場の消失する保全方針としている。

イ 環境の保全及び創造のための措置の検討結果

雨水流出量の抑制及び樹林地の保全における環境の保全のための措置として、以下の①、②に示すとおりである。

①調整池の適切な設置

- ・事業予定地の雨水は、事業予定地下流の既設雨水管の流下能力に見合った排水量とするため、雨水の放流量を調整する調整池を設置する。

②樹林地の保全

樹林地の保全として、事業予定地の10箇所の樹林地（図 1.5-4 p.1-17 参照）について、樹林を所有する地権者に対して、仙台市の保存樹林制度の紹介などを行いながら保全の働きかけを行う。保留地購入者のうち希望者には樹木の苗木を1本提供し、事業予定地全体に緑のコリドーが形成されるように推進する。

表 8.12-7 環境の保全のための措置の検討結果整理

環境保全措置	調整池の適切な設置	樹林地の保全
実施期間	工事完了後	工事中・供用時
実施位置	事業予定地内	
内 容	事業予定地下流の既設雨水管渠の流下能力に見合った排水量とする。	事業予定地の 10 箇所の樹林地について、樹林を所有する地権者に対して、仙台市の保存樹林制度の紹介などを行いながら、保全の働きかけを行う。保留地購入者のうち希望者には樹木の苗木を 1 本提供し、事業予定地全体に緑のコリドーが形成されるように推進する。
効果及び変化	効果を定量的に把握できないが、実行可能な範囲で影響を低減できる。	身近な自然との触れ合いの場が保全及び創造される。
副次的な影響	なし	特になし。
備 考	調整池の設置に際しては、計画段階から仙台市の管理者と容量・構造等について協議を図り、計画している。その中で、ビオトープ的な整備については、調整池内に樹林や水辺を整備した場合、枝葉等による排水施設の閉塞などによって防災機能が低下する恐れがあるため、緑地等の整備は認め難いと指導されており、緑地整備や水を貯めない現在の調整池計画となっている。	地権者の樹林の保全については、地権者との協議・調整が必要であり、不確実性がある。

8.12.4. 評価

(1) 工事による影響

ア 回避・低減に係る評価

(ア) 評価方法

調査及び予測の結果並びに保全対策を踏まえ、自然との触れ合いの場における自然環境要素、利用の快適性等への影響が、事業者の実行可能な範囲で回避され、又は低減されているものであるか否かについての検討による。

(イ) 評価結果

環境の保全のための措置として、工事の平準化等の実施、重機等のアイドリングストップや無用な空ふかしをしないようにするための作業員への指導・教育の徹底、排出ガス対策型及び低騒音型重機の採用など、大気汚染、騒音の抑制が図られていること、また、仮設沈砂池の設置により濁水の抑制を図ることから、策川、名取川における触れ合いの場への影響は、実行可能な範囲で低減が図られているものと評価する。また、事業予定地内の樹林地の保全についても、4号公園内に樹林地を取り込み、公園管理者との協議を踏まえ、郷土種を考慮して植栽を行うことから、実行可能な範囲で低減が図られているものと評価する。

なお、旧策川については、事業予定地との距離があることから、大気汚染及び騒音の影響はなく、濁水についても策川との分岐点よりも下流側に排水されることから、触れ合いの場への影響は、回避が図られているものと評価する。

(2) 存在による影響（改変後の地形、工作物等の出現）

ア 回避・低減に係る評価

(ア) 評価方法

調査及び予測の結果並びに保全対策を踏まえ、自然との触れ合いの場における自然環境要素、利用の快適性等への影響が、事業者の実行可能な範囲で回避され、又は低減されているものであるか否かについての検討による。

(イ) 評価結果

環境の保全のための措置として、事業予定地下流の既設雨水管への流出量をその管の流下能力に見合う量に抑制するための調整池を設置することから、放流先である策川への放流量も現状と同程度と考えられるため、策川、名取川における触れ合いの場への影響は、実行可能な範囲で低減が図られているものと評価する。

また、事業予定地内の樹林地の保全についても、10箇所の樹林地について、樹林を所有する地権者に対して、仙台市の保存樹林制度の紹介などを行いながら、保全の働きかけを行うとともに、保留地購入者のうちの希望者には樹木の苗木を1本提供し、事業予定地全体に緑のコリドーが形成されるように推進することから、実行可能な範囲で低減が図られているものと評価する。

なお、旧策川については、雨水排水の放流先が策川との分岐点よりも下流側であることから、触れ合いの場への影響は、回避が図られているものと評価する。